

平成22年4月1日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19202021
 研究課題名（和文） 日本・中国・台湾の研究者による中国民衆運動の史実集積と動態分析

研究課題名（英文）

Compiling and Analysis of the records of local revolts in Chinese history by researchers in Japan, China and Taiwan

研究代表者

吉尾 寛 (YOSHIO HIROSHI)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授

研究者番号：40158390

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：東洋史、中国、台湾、民衆運動、地方史実、データベース

1. 研究計画の概要

(1) 本研究は、過去中国民衆運動史研究に関わった日本のいわば三世代にわたる研究者、加えて中国・台湾における関係の研究者が参集し、それぞれの研究業績をふまえて秦末～清末にかけての中国民衆運動の地方史実を集積し、最終的に一体的なデータベース（以下「DB」と略称）を構築するものである。

(2) この作業を通して、日・中・台の研究の中で中国民衆運動の史実がどれほど掌握できているかを具体的に確認するとともに、集積された史実群をもとに中国民衆運動の歴史的動態のもつ特徴について実証的に解明し、さらには、日・中・台で共有できる新たな分析視点を見出そうとするものである。

2. 研究の進捗状況

(1) DBの構築と国内外からのWEB入力
 DB「中国民衆運動史実」は、2007年夏代表者が市販ソフトを利用し基本型を設計した。高知大学のサーバーからインターネットに掲出し国内・外の分担者・研究協力者がデータをWEB上で入力するものである。

(2) データの集積と入力

①文字データ：2007年度以来、唐末までのデータは、龍谷大学において一括し入力している。陳勝・呉広の乱、緑林・赤眉の乱、黄巾の乱・五斗米道教国、孫恩・盧循の乱、大乘教の乱、隋末唐初の諸叛乱、裘甫の乱、龐勛の乱、黄巢の乱について『正史』の記事を中心に約6,000件が現在入力されている。宋代以降については、零細な史料が多いため予備調査を行った上、方臘の乱、王小波・李順の乱、元末の紅巾の乱、明代河南の土賊、福建・江西省の民変、広東・福建・江西・湖

南等の山寇等、李自成の乱、奴変、江浙地区の搶米・民変・抗租、広東・広西省の少数民族等の反乱、太平天国および同時期の西南の少数民族反乱、魯西白蓮教反乱、山東・河北・安徽の義和団運動、民国期の秘密結社および台湾等の海賊について順次入力している（現在約2,000件）。

②画像データと現地調査

唐代以前の担当者は文字データの入力に見通しをつけると、2007年度後半より関係史跡の調査を開始した。09年度までに山東南部、江蘇、浙江北部、安徽北部、河南南部、湖北北部、陝西南部にかけて約40県を踏査し、画像データ約350点を収めた。

宋代以降についても①の分担ごとに順次現地調査を開始し、画像データ取得の作業に入った。特に2008年度以後、唐代以前の調査の成果を受けて、中国近世近代史研究において大きく取り上げられた民衆運動（明末清初の黄通の乱、奴変、清代の堡寨、義和団等）の史跡等の画像データ約7,000点を集積した。

(3) 史実についての検討

2008年11月に「唐代以前」班によるミニシンポ、09年2月と同12月には全体による非公開、公開の中間報告会をそれぞれ行った。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

(1) 文字・画像データの入力

DBは、現在の市・県等に準じた某地点について年次・地点名・関係人名・運動の発生・展開の原因の史実・史料の典拠（2次史料を含む）・研究著作等の文字データ、一定量の画像データをも保有できるものであるが、入

力操作に万全を期すため、初年度より南開大学、河南大学、安徽大学、台湾国立政治大学（博士生）等の海外協力者に対して直接説明を行った。その結果、当初の入力目標数約1,500件を遙かに超え、現在既に文字データ・画像データを合わせ15,000件前後に上る。集積した文字データ約1,327,000字の内約797,000字分が入力を終え、その中の約170,000字が海外からの入力である。

(2) 現地調査

「2.-(2)-②」に示した実績のみならず、他の分担者による調査（広東等）も、民衆運動の視点から行われたものとしては、日本の学界で前例のないものが殆どである。文字データの集積と議論の過程から生まれたもので、当初の予想を越えた成果である。

(3) 一体的 DB 完成のスケジュール

これまで3年間に分担者の逝去のほか、代表者自身の2ヶ月余りの入院などがあり、計画の日程を2度変更した。特に代表者のみが遂行するDBの改良は、大量の画像データへの対応とも相まってやや遅れており、目下かかる画像データの処理を可能にする「Ver.3β」を試作中である。全データを一地域について関連づける一体的DB「Ver.3」の完成は最終年度に持ち越された。なお、DBは、集積中のデータを保護する観点から基本的に公開していない。

4. 今後の研究の推進方策

これまでに得られた成果を、基本方針を変えることなく量・質ともに高めることを目指す。「3.-(3)」の一体的DB「中国民衆運動史実 ver.3」を完成させるとともに、本科研に参加した全メンバー（分担者～海外の協力者、顧問）による成果公表を含む国際シンポジウムを開催する。討議は、この3年間の中間的協議をふまえて、①民衆運動の観点から地域の情報（事実と伝承等）を網羅的に把握する必要性、②全体史と断代史を共に考えさせる研究、③中国社会の現状（改革開放と較差、農民問題）との関わり方等々をめぐって進め、この分野の研究の再生に些かでもつなげたい。そのためにも、DB「ver.3」と「成果報告書（シンポの内容を含む）」は一定期間ウェブサイトで公開し、「報告書」の一部は書籍として刊行したい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計22件）

①菊池秀明「金田団營後期の太平天国をめぐる諸問題」、海南史学、47、pp. 53-78、2009、査読有

②吉尾寛「浅析捻軍・苗練占領圩寨の戦略意図」、淮河文化縦論（中国合肥工業大学出版社）、pp. 205-217、2008、査読有

③葭森健介「回顧近代日本の魏晋南北朝文化史研究」、『中国魏晋南北朝史国際学術研討暨中国魏晋南北朝史学会第9届年会論文集』、pp. 13-17、2007、査読有

④佐藤公彦「近代中国におけるキリスト教布教と地域社会—その受容と太平天国」、歴史評論、690、pp. 56-70、2007、査読有

〔学会発表〕（計4件）

①三木聰「抗租 再び—27年後の展望」、(基調報告)、『明清史夏合宿2007』、2007年7月29日、北海道・むかわ町

〔図書〕（計5件）

①松浦章、上海辞書出版社、(単著)『清代帆船東亜航運与中国海商海盜研究』、2009、pp. 1-337